

1年間で学んだこと

活動先：NPO 法人 ベタニアホーム
クラス：村上 徹 也先生

1. 自分の成長と気づき

私がこの1年間サービスラーニングの活動をしてきて成長したと感じる点の1つ目は、NPOについての理解が深まったことだ。正直、1年生のころはNPOと言われても一体何なのか理解していなかった。しかし今では、NPOについて聞いて・読んで・考えて・書いて・実践することができた。地域にはなくてはならない、地域のニーズに合わせたNPO。私たちの生活にとっても密接していることが分かった。

2つ目は、レクリエーションを企画し実行する力である。なぜなら、活動中に1人でペインティングのレクリエーションを進行したり、2人でうちわ作りのレクリエーションの進行をしたり、職員の仕事の中のことを進行させていただいたりしたからだ。ペインティングでは、職員の手伝いもあり利用者全員が、それぞれ個性豊かな絵を完成することができた。また、うちわ作りでは利用者に1つのやり方を押しつけるのではなく一人一人好きなように作ってもらうという大切さも学ぶことができた。レクリエーションを進行していく上で、戸惑うこともたくさんあったが、レクリエーションを利用者に押し付けるのではなく一緒に楽しむことが成功へのカギなのではないかと感じた。この成長できたことは、今後の大学生活におけるサークル活動や実習に生かしていきたいと考える。

3つ目は、自分にはまだコミュニケーション能力が足りないということに気がついたことだ。認知症の方との関わりだったということで難しい面もたくさんあると思うが、活動の中盤になってもなかなか利用者に自分から話題を振ることができなかった。高齢者はみな人生の大先輩なのだから、昔のことをたくさん教えてもらえばよかったと思う。活動先の職員は、利用者の個性を理解し、受け止めていた。また、利用者の気持ちを観察し、その日の健康状態を考え、いつもと様子はどうか考えていた。こういうところから信頼関係が生まれ、コミュニケーションもうまくいくのだと気づいた。

4つ目は、支援には利用者個人だけを見るのではなく、その家族へも目を向けることが大切だと感じた。利用者が一番深くかかわっているのは家族であり、その家族から利用者の状態を聞くのは必要なことである。また、家族関係によって利用者の心の問題が起こったりする場合がある。そういう細かいところまで見るのが大切だと気づいた。

2. この活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

サービスラーニングの活動を通して見えてきた地域活動や社会課題は、利用者個人とNPOという関係だけではなく、利用者とその周りとのNPOという関係性まで持っていくことが大切であり、課題だと感じた。NPOは地域の中にあり、その地域のニーズに応えて活動している。しかし、特定の対象者との関係だけで終わってしまっている場合が多い。なので、もっと地域住民とのかかわりが必要だと思う。NPO側は、特定の対象者だけで

は終わらない広い関わりを持てる場を作る必要があると思うし、地域住民側は NPO に理解を示し積極的に参加する意思を持つ必要がある。また、NPO と地域住民が深くかかわるためには、間に入る人が必要だと思う。この間に入る人が、NPO と地域住民をつなげ地域活動を活性化させることができると感じた。この人こそがキーマンなのではないかと思う。

2010年5月6日(木) NPO バスツアー
ネットワーク美浜 ➡ ばお ➡ ふわりに訪問

